

# 令和4年度第3回嬉野市未来技術地域実装協議会

## 議事録

### 1. 開催概要

日時：2023年3月3日（金）14:00～16:00

場所：嬉野市役所 嬉野庁舎 2-3-1 会議室

### 2. 議事

(1) PT1：嬉野の魅力を全国・全世界に発信する環境づくりについて

(2) PT2：来訪者の移動を支えるモビリティサービスについて



協議会の様子

### 3. 意見・質疑等

(1) PT1 について

#### まちづくり嬉野

- ・ 有意義なデータ取得となっている。「UP LIFT」もデータ共有できればと考えている。
- ・ P.46 事業スキームの構築が本事業の目標、ゴールと考える。
- ・ インバウンド観光需要の増加など、環境に変化はあるが、コンセプトがずれないようにする必要がある。
- ・ コンテンツ論はインフラ環境が整ってからとなる。今後、誘客するための装置が必要となる。
- ・ まちづくり嬉野では、婚活事業など、明確なターゲットを設定したうえで、各種事業の協議・調整を行っている。
- ・ 嬉野名産とゴジラ、ウルトラマン等のアニメ文化、コンテンツとのコラボレーションで商品開発を行っても面白い。
- ・ 本事業のメタバース空間で、嬉野まで実際来ないと買えない、ログインできないなどの企画開発が必要である。
- ・ 「プロモーションツールとしてどれがいいのか？」「アクセスツールとして何が意義高いのか？」を取得データから分析、整理する必要がある。今後、移動データ、マネタイズポイント、コンテンツの作り方を具体的に議論する必要がある。

#### 事務局（受託事業者）

- ・ 取得したデータを見ながら議論した方が良い。4月以降、具体的な協議をお願いしたい。

#### 嬉野温泉観光協会

- ・ 新幹線開業や本事業の情報提供、周知・PR の効果なのかわからないが、「湯遊嬉野チケット」がものすごく売れている。新幹線開業前に比べ、売り上げが倍増している。
- ・ （嬉野市への来訪、チケット販売増加について）DMO のデータと P.16 に記載しているデータを活用して分析を行うことが重要と考える。
- ・ 嬉野市への来訪者、嬉野温泉駅利用者が「どこから来たのか？」などの属性がわかれば、PR・ターゲットがわかる。
- ・ 嬉野温泉観光協会とデータ共有して、今後活用していきたい。

#### 事務局（受託事業者）

- ・ 嬉野温泉観光協会などが実施しているアンケート調査結果では、サンプル数が少なくなってしまう。
- ・ 本事業では、LINE 公式アカウントで実施したアンケート調査では、属性に居住地エリアの回答を追加していたことでどこから来たのか分析できている。
- ・ P.16 を見ると福岡県、佐賀県、長崎県が上位を占めているが、「四国」や「和歌山」からも来訪がある。

- ・ LINE 公式アカウントの普及、「友だち」が増えることで、来訪分析などができると考えている。

#### **嬉野温泉観光協会**

- ・ （コロナウィルス感染の収束を受けて）外国人観光客、インバウンド需要が増加している。外国人データを取得できると良い。

#### **事務局（受託事業者）**

- ・ インバウンド需要をどのように考えるかも、今後、一緒に考えていきたい。

#### **事務局（受託事業者）**

- ・ 本事業で得られたデータだけでなく、観光施設、商業施設、旅館等で管理している「実データ（利用者数、収支実績等）」を融合して、分析を行っていかねばいけない。
- ・ 現状では、嬉野温泉観光協会ホームページのアクセス件数は増加しているが、嬉野温泉駅の日別乗降客数もわからないなど、実質的に本事業を通して、嬉野市へ誘客に繋がっているのかわからない。
- ・ 本事業で構築した「箱（データプラットフォーム）」に各自保有のデータを継続的に蓄積して、分析する必要がある。

#### **祐徳自動車（株）**

- ・ バス事業の観点から（嬉野温泉駅から商店街、温泉街までなど）バスを潜在的に利用している方もいる。
- ・ 路線バスを利用して、観光地へ行くテレビ番組などの影響で、バス利用しながら観光する需要はある。
- ・ 佐賀県で行った「バス無料デー」でバス利用が増加していた。
- ・ 佐賀 MaaS や九州経済連合会が行っている九州全域 MaaS 事業との連携、リンクすることで、更に嬉野市の魅力を発信できるのではないかと考えている。

#### **議長（嬉野市長）**

- ・ バーチャル空間とリアル空間を融合、結び付けていく必要がある。バーチャル空間の構築により、現実、リアルに来訪に繋げる必要がある。バーチャル空間だからできるコンテンツ展開もお願いしたい。NTT 西日本（リンクスパーク）で「360℃カメラ動画によるバーチャル体験」を行っていた。
- ・ 新茶の揉捻（揉む）作業、有田焼の焼き場、ろくろ、絵付け作業など、リアル空間・現実では職人に近づいて観ることはできない（できるが限界があり、迷惑となる）。バーチャル空間の視聴者には、リアル空間ではできない体験動画、情報を提供するなど、アイデアを出し合い、楽しみながら最終的にコンテンツ造成をしていければ良い。
- ・ 本事業で取得したデータについては良い。うれしの観光推進コンソーシアムで「ビッグデータを活用した実証実験事業」を行っているが、500mメッシュとなっている。前年同月比較を行っているが、課題は多い。（東海地方からの新幹線が多いという分析結果だが、新幹線開業イベント時に元 SKT48 松井玲奈ファンが多く来訪した等が理由の一つと考えられる。）
- ・ 取得したデータと実データ、イベント催しなどの実施状況などと紐づけて確認する必要がある。

#### **国土交通省**

- ・ スタンラリー、利用ログは今後、増やしていく予定はあるか。店舗の協力が必要となるが、データを増やしていく展望はあるか。

#### **事務局（受託事業者）**

- ・ スタンラリーについては、各組合の協力のもと実施した。
- ・ スタンラリー協力店舗にデジタルスタンプとなる「QR コード」を設置し、LINE 公式アカウントから読み取ってもらい、コンプリートした参加者に 500 円相当の地場産品プレゼント、インセンティブを提供した。
- ・ スタンラリーの利用履歴データを見ると、来店数が多い、少ない店舗などばらつきを確認することができた。取得した

データについては、各組合、店舗にフィードバックしていく。

- ・ スタンプラリーを通して、デジタル効果を理解してもらっている。今後もスタンプラリーの開催を想定し、各店舗に「二次元バーコード」スタンドを保管してもらっている。次回開催時も継続的に利用できるよう店舗 ID（未協力含む）を振っている。
- ・ 今後 2～3 年は継続でき、データを取得できる仕組みを構築している。しかし、二次元バーコードを読み込ませない  
と来店、利用ログが取得できないため、そこは注意する。

#### **国土交通省**

- ・ 協力参加店舗への効果が言えるようになると良い。

#### **議長（嬉野市長）**

- ・ 来年度の「嬉野の魅力を全国・全世界に発信する環境づくり事業計画について（PT1）」承認確認を行う。
- ・ 承認される方は、挙手をお願いします。

#### **各委員**

- ・ （全員挙手）

#### **議長（嬉野市長）**

- ・ 委員全員挙手のため、来年度の（PT1）事業計画については承認されました。

#### **（2）PT2 について**

#### **国土交通省**

- ・ 自動運モビリティ実証実験に向けて、目的をどこに置くのか。対象・ターゲットは、観光客向けなのか？市民向けなのか？。ルートは観光客向けであれば、嬉野温泉駅から温泉街までが良いが、市民向けであれば、市役所まで運行しなくて良いのかなど、社会実装を行うにあたっての目的を明確にすると良い。
- ・ アンケート調査結果の中にもあるが、一番の問題になるのは「スピード」。「スピード」をカバーする付加価値の提供をどうするのが課題となる。
- ・ 来年度実施する実証実験は「レベル 2」で良いか。「レベル 2」であれば信号などの調整を考えなくても良いので、比較的問題はないと考えている。実証実験ルートなど、最終決定にあたっては、必要に応じて住民アンケートの実施も考える必要がある。

#### **事務局（受託事業者）**

- ・ 実証実験の目的については、PT1 との関連性など、事業の趣旨を考えると主軸は「観光客」がターゲットになると考えている。市民、生活利用については、付加的な交通とするのが良いと考えている。
- ・ 「スピード」については、「観光客」をターゲットにするため、時間的な余裕があり、低速でもストレスを感じない方を対象とするため、問題は大きくないと考えている。実証実験の際は、後続車への影響、利用者及び地域住民へのストレスを確認していきたい。
- ・ 実証実験のレベルは、「レベル 2」を想定している。

#### **議長（嬉野市長）**

- ・ 市としては、最終的に身近で生活に根ざし、普段の買い物、通院、市役所等への移動にも使ってもらい、将来的には地域課題の解決につながる自動運転モビリティを運行したい。
- ・ 実証実験、最初の導入時点においては、道路交通法の障壁が高いことから「観光」という観点からであると導入しやすいと考えている。
- ・ 塩田地区へはデマンドタクシーの導入、令和 7 年には市役所新庁舎建設ができることから、当面は現庁舎の解体

などで、乗り入れは難しい。新庁舎前には広場ができる予定のため、国道を横断する形となるが、将来的には自動運転モビリティの乗り入れを検討していきたい。

#### **まちづくり嬉野**

- ・ 境町の運営主体は自治体になるのか。第三者機関になるのか。

#### **事務局（受託事業者）**

- ・ 資料 P.38 の参考に記載している。境町では観光協会が運営を行っている。運行にあたっては「BOLDY」が行っている。町のふるさと納税や国からの交付金を活用し、業務委託の形で行っている。

#### **まちづくり嬉野**

- ・ 「マクニカ」は、交通免許（一般乗合旅客自動車運送事業者）を持っているのか。

#### **事務局（受託事業者）**

- ・ 運行は「BOLDY」が行っており、NAVYA 社車両の運転手訓練、車両メンテナンスは「マクニカ」が行っている。

#### **まちづくり嬉野**

- ・ 実証実験は現行の道路交通法とは違う形でやっていくのか。「マクニカ」が運行する場合、特例的な道路交通法の改正、条例の設定、見直しを行うのか。

#### **事務局（受託事業者）**

- ・ 実証実験の実施については、道路交通法に準拠して実施している。境町の取り組みが自動運転モビリティの公道実験を通して、法改正に一部影響した取り組みとなっている。

#### **まちづくり嬉野**

- ・ 自治体ごとに事業目的に応じて、やり方が異なる場合は、条例の見直しなどの調整を行うものなのか。

#### **事務局（受託事業者）**

- ・ 条例ではなく、道路交通法の規制による。また、警察との協議、調整が必要となってくる。

#### **事務局**

- ・ 基本的には、道路交通法に準拠した実証実験しか行えない。

#### **事務局**

（Web 参加者の委員よりチャットに記載のあった、質問意見の共有）

- ・ PT1 時の意見として、2 点あったのでご紹介する。
  - ①総務省・森本委員：インバウンドの対応として、NICT 開発無料アプリ「ボイストラ」の活用を提案する。
  - ②佐賀県・鷲崎委員：ベンチ型の自動運転パーソナルモビリティは吉野ヶ里遺跡公園で実証運行している。是非体験して欲しい。

#### **議長（嬉野市長）**

- ・ 来年度の「来訪者の移動を支えるモビリティサービス事業計画について（PT2）」承認確認を行う。
- ・ 承認される方は、挙手をお願いします。

#### **各委員**

- ・ （全員挙手）

#### **議長（嬉野市長）**

- ・ 委員全員挙手のため、来年度の事業計画については承認されました。

#### **事務局**

- ・ 協議ありがとうございました。令和 3 年度から協議を開始し、何をやる事業なのか？という形で協議を開始しました。

- ・ 令和 4 年度で事業の形が見えてきて、説明できる内容になってきている。令和 5 年度はさらに使えるものとして、「稼ぐ力」として運用できるように推進していきたいと考える。 以上